

さくらがおか たかやま こうくがひ

3 桜ヶ丘・高山・校区外コース

⑤ ひめづか 耳塚



600年(大和朝廷時代)越智益躬が泥棒を討ち、その耳を切って埋めたと
いわれている。

⑥ たかやまじょうあと 高山城跡



1334年～1585年道後湯築城の
近習頭である高山雅楽介の城であったと
いわれている。

「近習頭」とは、部隊(旗本)を
指揮する中堅武将のことだよ。



⑦ ひめづか おおじぬし かな 姫塚(大地主の神)



天照大神の孫娘が、伊予のこの地に住
まれ、生涯を全うされた。地元の人々
は、やさしく美しい姫の遺徳を偲び、立派
な姫塚を建てた。

「姫塚」は、松山学園の北の庭に鎮座し
ている。

⑧ みつはま松山港務所・消防救急艇棧橋の照明灯



さんばし うつ はんしょうだい げんざい しょうめいとう
棧橋に移った半鐘台（現在は照明灯）



みやまえしょうぼうぐんだん はんしょうだい
宮前消防分団にあった半鐘台

ふる みつ ちょうめ もとみやまえしょうぼうぐんだん はんしょうだい はんしょうだい だいめ
古三津1丁目の元宮前消防分団の半鐘台である。この半鐘台は2代目
で、昭和22年から半世紀にわたり古三津地区住民に親しまれ、火の用心
のシンボルとして住民の安全を見守ってきた。平成20年7月に取り壊し
となったが、半鐘台を永く後世に伝えたいという住民の熱い想いを
受け、消防救急艇の安全を守る新たな役目を得て、この地へ移築した。

はんしょう かじ てんさい どりぼう し
「半鐘」は、火事・天災・泥棒などを知らせる
ために打つ鐘のことだよ。「半鐘台」は、火の見櫓
ともいって、火事の際に上に登って半鐘を打ち
鳴らし、町内に知らせていたんだよ。



⑨ みつづつくまじんじや
三津巖島神社



ねん やまとちやうていじだい だい だい
600年(大和朝廷時代)第32代
崇峻天皇の時代に、九州宗像
大社より宗像三女神(市杵島姫
命・湍津姫命・田心姫命)を
お迎えしてまつたのが始まりで
ある。海上安全・交通安全の神と
してまつられている。元は、元屋敷
(現在の松山西中等教育学校
付近)にあったが、1602年川屋畑
の戦いで焼失し、現在の地(三津
地区)へ建てられた。

かんげつざん

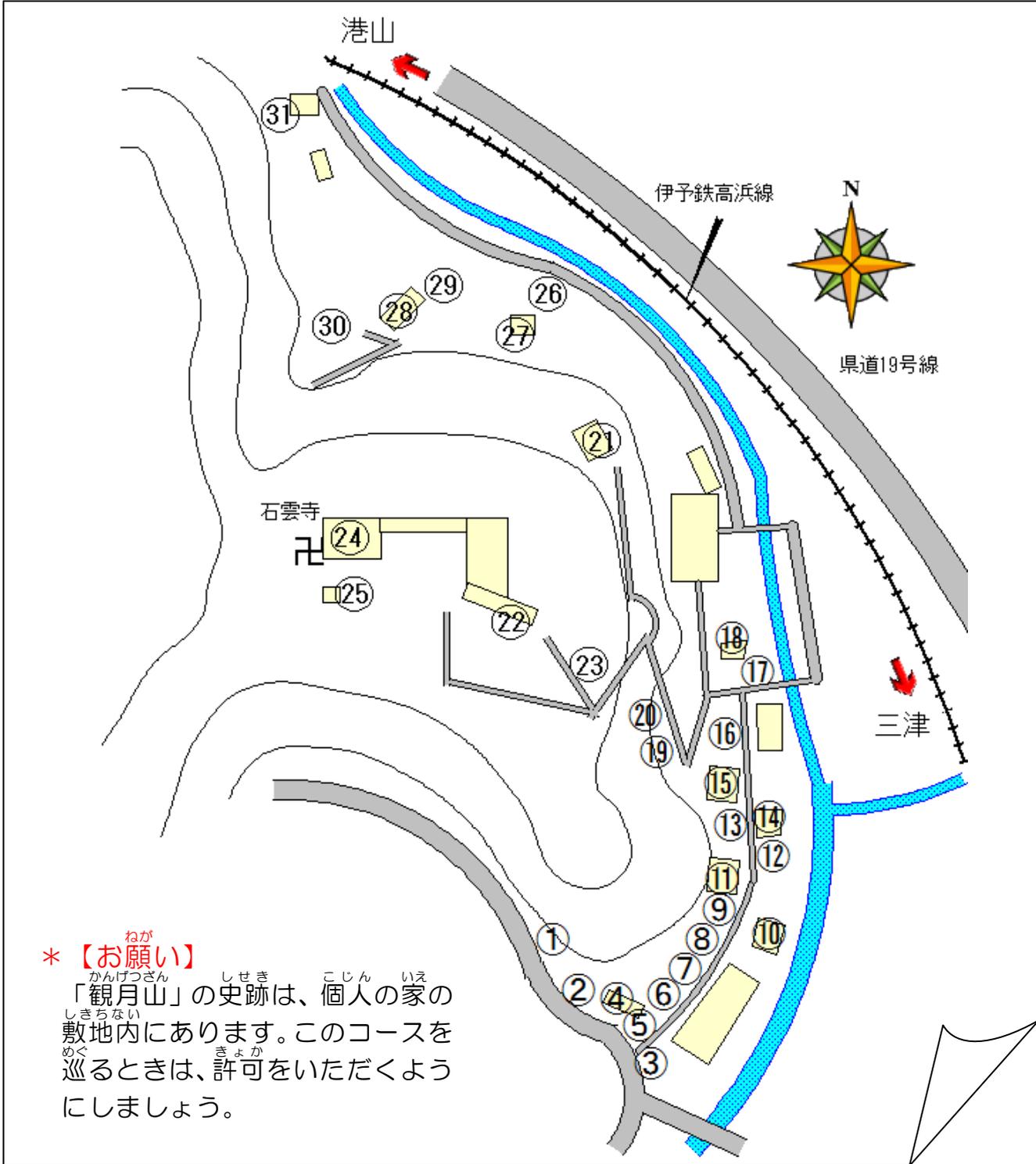
観月山マップ

かんげつざん

「観月山」について



東港山を「観月山」という。ここから見る月はどこよりも美しく、その名が付けられた。頂上に「石雲寺本堂」、山すそに「観月庵」、庭内に句碑・歌碑が点在しており、さながら句碑公園と呼ぶにふさわしいところである。



* **【お願い】**
 「観月山」の史跡は、個人の家の敷地内にあります。このコースを巡るときは、許可をいただくようにしましょう。

4 観月山(辰巳)コース

あるみち 歩く道にそって、じゆんばん せつめい 順番に説明していくよ。
さあ、しゅっぱつ 出発！



スタート

① かんげつあんくかいひむうどうくひ 観月庵句会集合句碑

わかば しゅさい とみやすふうせい
「若葉」主宰・富安風生を
ちゆうしん めい はいじん く
中心に、16名の俳人の句が
きざ 刻まれているよ。



| | |
|-------------------|--------|
| 梅にぞつ 佛の賑う 雨に濡れ | 三好 魚文 |
| 門を入れて 一山花乃宴 | 棟田 万佐於 |
| 鶯鳥ども 喜びさわぐ 花咲けり | 藤原 暢子 |
| 拾ひたる 沙羅の落花の露に濡れ | 藤田 ひろむ |
| 葉にかくれ 睡蓮眠る 花を閉づ | 本山 一彦 |
| 通夜堂の 庭続きなる盆踊り | 岩崎 十風 |
| 頂の 諸畑にあげ 月涼し | 平松 一步 |
| 句碑の灯に 踏みて捨う なつめかな | 芳内 喜和子 |
| 山道の掃いてありたる 初詣 | 富安 風生 |
| 海の上 歩けそうなる良夜かな | 村上 多津 |
| 芦刈乃 移れば移る 芦火かな | 重松 美智緒 |
| 石庭の 影峨々とあり 十三夜 | 中野 庄 |
| 鳴ちから たまれば鳴きぬ 冬の虫 | 竹内 武城 |
| 笹鳴いて 身ほとり何の音もなし | 二神 比出 |
| 紫を 秘めたる蕾寒あやめ | 児玉 美代 |
| 人来ると 鶯鳥の知らず 炭をつぐ | 中西 月龍 |
| 一片の 雲のよこたふ 春の富士 | 中西 月龍 |

② 「すいすいと ^{かぜ} 風のあとよ ^り 里 ^{まつおちば} 松落葉」
^{もり} 森 ^{しよつかたん} 薫花壇

③ ^{ちぼうあん} 智房庵



④ ^{げつこあん} 月虎庵

⑤ 「十一人 ^{ひとり} 一人になりて ^{あき} 秋の暮」
^{まさおかしき} 正岡多規

^{まつやま} 松山に ^{きせい} 帰省し、^{くぼたかいそうてん} 久保田回漕店に泊まり、
^{しゆんふうかい} 松風会の ^{とも} 友、^{じゆうにん} 十人との ^{そうべつ} 送別の ^{くかい} 句会で
^よ 詠まれた。 ^{めいじ} 明治28年10月、この ^{ねん} 帰省を ^が 最後
^{ふたた} に ^{ふるさと} 再び ^{つち} 故郷の土を ^{さいご} ふむことは ^{なかつた} なかった。



⑥ 「^{はるかぜ} 春風は ^{ほうえ} なれぬ ^{やて} 法衣の ^{なかにむげつりゆう} 袖をふく」
^{ちゆうぎつりゆう} 中西月龍

^{だいざ} 台座も ^{くひ} 句碑も ^{えんけい} 円形という ^{くひ} めずらしい ^{くひ} 句碑で
ある。「^{ほうえ} 法衣」は ^{そう} 僧の ^{ふく} 服の ^{ぶつもん} ことで、^{しゆぎよう} 仏門の ^{しゆぎよう} 修行
を ^{はじめ} 始めた ^{たさくしや} 作者の ^{きもち} 気持ちが ^{つた} 伝わってくる。

⑦ 「^{つき} 月に侍つ ^た 我に ^{われ} 月見の ^{つきみ} 人往来」 ^{ひとおうらい} 柳原極堂

⑧ 「賑やかに暮るる日もあり庵の秋」
まさおか しき
正岡子規

まさおか しき (1867~1902) は、
まつやましう まつやま はじ
松山市生まれで松山に初めてベ
ースボール(野球)を紹介した
んだよ。また、俳句や短歌の
けんきゆうしゃ やきゆう しょうかい
研究者としても有名な人。35歳
という若さで病気でなくなって
しまったけど、心に残る俳句が
わか びようき
句碑としてたくさん残されてい
るよ。

⑨ 「この宿に 汗も甘え 鳴く雨蛙」
やど なんじ あま な あまがえる
はじもと かあう
橋本花風



⑩ かんげつあん
観月庵
ていえん
庭園のシンボルである。

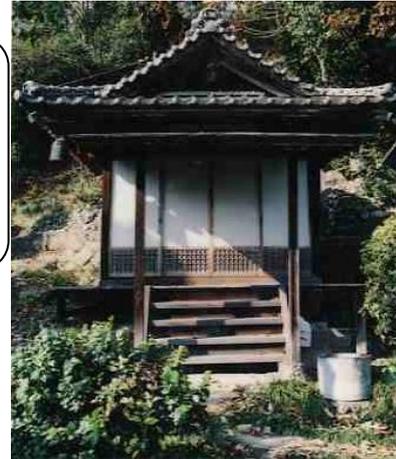


⑪ かのんどう
観音堂

せんぞ くよう こうぼうだいし
ご先祖の供養と弘法大師をおまつりし
おどう
ている御堂である。



⑫ 「石鏡の 嶮に雨す 月の庵」
いしづち けん ひさし つき あん
とみやすあうせい
富安風生



⑬ しょうわてんのうきよせい か ひ
昭和天皇御製の歌碑
しず うしお ひがた すな
「静かなる 潮の干潟の砂ほりて もとめえむかな おほみどりゆむし」

⑭ うきみどう
縁見堂

しょうわてんのう た だい な ご ざいりょう
昭和天皇のお立ち台の名残りの材料
しょう
を使用している。



⑮ なんてんどう
南天堂



①⑥ ^{さんもん}「山門の さくらにあげし ^{つき}月まどか」
^{なかにしげつりゅう}中西月龍

^{しょうわ}昭和54年4月2日の^{めいにち}月龍の命日に、
^{なかにしさとる}中西^た智^{ちや}さんによって建てられた。「茶」
^{もじ}の文字は^{げつりゅうじしん}月龍自身^かが書いたもので、^{かずかず}数々の
^{おも}思いが込められた^{くひ}句碑である。



①⑦ ^{あじた}「藤垂れたり ^{みほとけ}この御佛に ^{とみやすふうせい}またまみゆ」 富安風生

^{かんげつあん}観月庵には^{やま}山の^{あな}がけに穴をあけ、そこに3体の^{たい}仏像^{ぶつぞう}をまつてあ
^{ふじ}る。藤の花^{はな}が垂れる^たころ、それらの^{ぶつぞう}仏像^{なが}を眺め、^{おも}思い^{おも}に^うふけてい
^{ふうせい}る。風生^{すがた}の姿^めが目^うに浮かぶようである。



①⑨ ^{おどう}お不動さん

①⑧ ^{しょうろうどう}鐘樓堂



①⑩ ^{あん}「この庵の ^{あおだいしやう}青大将も ^{ちき}知己の ^{うち}内」 ^{はしもと かふう}橋本花風

^{くさむら}草村から^{あおだいしやう}青大将^{あたま}がずっと^だ頭を出してこち
^みらを見てい^{こわ}そうな^{こわ}恐さのある句である。

①⑦ ^{ふうせいあん}風生庵



①③ ^{さかだるちゃひつ}酒樽茶室



①④ ^{かんげつざんせきうんじ}観月山石雲寺



①② ^{しょうげつあん}松月庵



①⑤ ^{ふうせいどう}風生堂



おおつきよ
 ②⑥ 「大日夜 あげてかえらぬ 人となる」
 ひと
 なかほしげつりゅう
 中西月龍

やなぎはらきよくどう な じょうけい いだい
 柳原極堂が亡くなった情景と偉大な
 こうせき たた く
 功績を称えた句である。



せきうんどう
 ②⑦ 石雲堂

せうりゅうあん
 ②⑧ 双龍庵



たんざ し おん おも まつ はな
 ②⑨ 「端座して 四恩を懐う 松の花」
 とみやすふうしやう
 富穿風生

たんざ ただ すわ
 端座とは正しく座ることである。
 にんげん どうし むす ふ し ぎ きずな おも
 人間同士を結ぶ不思議な絆を思う
 きも つた
 気持ちが伝わってくる。

なるこ ひ ぜんざん つゆ いけやま こうさんじん
 ③⑩ 「鳴子引けば 全山の露 さかだちに」 池山 浩山人

せうりゅうあん おぼろあん あいだ なるこ おとず ひ
 双龍庵と朧庵の間に鳴子がかげられ、人が訪れると、鳴子を引
 いて知らせた。



この句碑は、「双龍庵」の北側の
 わき道を山に少し上がったところ
 にあるんだよ。

きよくどうあん
 ③① 極堂庵



やなぎはら きよくどう まつやまし
 柳原極堂（1867～1957）は、松山市
 生まれで正岡子規と同年。「極堂」とい
 う号（俳人としての名前）は、子規さんが
 つけたそうだよ。子規さんといっしょに
 月間俳誌「ほととぎす」を創刊した。

しょうわ ねん ねん まつやましめいよしみん
 昭和32年（1957年）には、松山市名誉市民
 えら
 に選ばれているんだよ。

